



多摩湖一周ウォーキング (2018. 11. 11)

新年度を迎えて

支部長 今井 康之 (昭32経営)

新年度を迎え、校友の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

当地域支部は今年で設立八年を迎えることが出来ました。これも会員相互のコミュニケーションはもとより、地域の皆様のご支援、多摩各地域支部の皆様のご支援の賜物と確信しております。

昨年は十回目を迎えた「石田波郷俳句大会」運営のお手伝い、「清瀬自然を守る会」主催の野鳥探鳥会へ参加、又、地域の皆様も多数ご参加いただき恒例の「多摩湖一周ウォーキング大会」「麻雀大会」等を開催してまいりました。更には趣向を凝らした「東京湾クルーズ」で夏の一日を楽しみました。多摩支部主催の「箱根駅伝予選会」の応援では、応援の甲斐があり見事予選会を突破して、お正月を楽しませてもらいました。「明早ラグビー」の応援では多摩支部から百数十名の校友が応援に駆け付けましたが、応援むなしく宿敵早稲田には敗れたものの大学選手権では大方の予想を覆し見事日本一になったのは記憶に新しいです。

一方、毎月開催の懇談会では、皆様のご期待に応えるべく新たな企画を常に検討しております。俳句の修練の場である紫紺句会は五十回を超えて益々盛んとなり、近隣の地域支部の方々もお迎えし日々俳句作りに励んでおります。この会報が発行される頃には新しい元号が發布され、改元に向け慌ただしい日々が続いていると思います。新元号のもと、皆様とよりよい校友会を目指したいと思っております。

今年には更にラグビーワールドカップが開催され、来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。校友の皆様も多くの方が二回目の東京オリンピックだと思えます。オリンピックに出場する後輩達の活躍を楽しみにしてまいりましょう。

三十年度の活動を振り返って

幹事長 粕川 偉三男(昭48年政経)

今年度は地域支部設立八年を迎えますが会員一同、十周年に向け日々張り切って活動しております。

平成三十一年度の総会を前に昨年の活動を振り返ってみたいと思います。

定時総会ではマンネリを避けるべく各種事業を設定いたしました。

定例の月一回の「懇談会」では母校の現状や近隣地域支部の情報、又会員相互の情報交換等活発な意見交換が行われました。

「懇談会」後の「懇親会」では従来通り各月の誕生会を兼ね、充実したコミュニケーションの場となっております。又「紫紺句会」も丸四年を過ぎ真剣な句会となっております。校友会の方々、近隣の校友の方々をお迎えし充実した活動を行ってまいりました。

「大林組技術研究所キンラン・ギンラン見学会」

「清瀬水処理再生センター観桜会」 「曼殊沙華見学会」

「国分寺史跡巡り」等企画・参加してまいりました。

昨年は校友会設立以来活躍された方の悲報がありました。が、あらたに二名の方をお迎えする事が出来ました。皆様のご支援を賜り、より充実した「地域密着型地域支部」を目指してまいりたいと思います。

清瀬地域支部の定時総会にご出席ください！

◎日時 五月二十六日(日)午後二時三十分から

◎会場 清瀬市生涯学習センター六階(アミュー)

◎懇親会 午後四時から 南口「魚久」(会費二千円)

平成最後の忘年会に参加して

平塚 善勝(平一工院)



毎年十二月に行われる忘年会が、いつもの「魚久」の二階のテーブル席(清瀬駅南口徒歩一分)で行われました。

今年で私が参加するのは三回目ですが、その前の二回は上の座敷で行っていました。

食事はこの料理屋ならではの内容で、三時からの開始でしたが量も程よく美味しく頂け、毎年お会いできる諸先輩の方々とのお団らんができて楽しいひと時でした。気のせいかもしれませんが毎年減っている感があり、少々寂しかった気がします。

私は工学部出身で、大学院までの六年間を生田校舎で過ごしましたが、嘗ての工学部は、お茶の水校舎の地下にあったことを改めてお聞きして「あんな狭いところで実験などよくやっていたな」と感心した次第です。そんな昔話が聞けることもこの忘年会の魅力ではと感じています。ただ、残念に思うことは、私自身が一年に唯一参加するイベントであり、参加者の顔と名前が一致していないと言うよりも、もともと名前を把握できていないことです。限られた時間の中なので、すべての参加メンバーを把握することはできませんが、お名前が分からないまま、一年後にまたお会いするというのが少々つらい状況です。(聞いても一年後には忘れていて)。普段お付き合いのある方々は問題ないと思いますが、簡単な参加者の顔写真入り自己紹介リスト(出身学部、趣味など)があれば、初めて来る人でも話に入りやすいかなと思います。また来年元気でお会いできることを楽しみにしております。



全国校友石川大会に参加して

永代 達三(昭48政経)

「第五十四回明治大学全国校友石川大会」は平成三十年九月三十日(日)に「石川県立音楽堂」を会場に記念式典、記念講演会が開催されました。また、懇親会は「ホテル日航金沢」において、大韓民国支部からの参加も含め約一千人の校友とその家族が一堂に会し盛大に開催されました。

大会当日は台風による悪天候の影響で交通機関の乱れがあり、沖縄県支部他の校友会員が参加できない中、盛大に開催されたことは本当に喜ばしいことでした。大会開催の石川県の努力が報われ安堵いたしました。私は前夜祭、大会と参加しました。東京都多摩支部からは西山支部長をはじめ多くの方々が参加しました。

記念式典は例年通り大会旗の入場で始まり、国歌斉唱、校歌斉唱、安井石川県支部長の歓迎の挨拶、向殿校友会長の挨拶、柳谷理事長、土屋学長から祝辞、谷本石川県知事(副知事代読)、山野金沢市長、今村連合父母会長から来賓祝辞。さらに次回開催県の小関千葉県支部長から全国の支部長を代表し挨拶が続き、万歳三唱を参加者全員で行い無事終了しました。

記念講演会は「まちづくり都市 金沢」のテーマで前金沢市長の山田氏から金沢市の歴史とまちづくりについての大変興味深く含蓄のある講演があり、会場から盛大な拍手を受け終了しました。

懇親会は「ホテル日航金沢」に会場を移し行われました。会には、冒頭お揃いの黒い着物、金沢市三廓芸妓の皆さんによる「素囃子」(歌いと舞踊)が披露され古都金沢の雰囲気を感じて暮開けとなりました。中村大会実行委員長からの歓迎のあいさつに続き鏡開きが大学役職者、校友役員が参加し行われ、向殿会長の乾杯、次回開催千葉県のビデオPRの後、応援団OBによる校歌斉唱を参加者全員で肩を組み声高らかに歌いあげ盛会裏に終了

しました。

前夜祭は前日の午後五時から金沢駅前のホテル金沢「エメラルドルーム」で多くの校友が参加し、御陣所太鼓が勇壮に響く中、開催され、本大会の成功を祈り和気あいあいのうちに終了しました。

今回の石川大会のコンセプトは「明治はひとつ 来まつし 見るまつし 寄るまつし」でしたが、御陣所太鼓、三廓の芸妓さん、食事など加賀百万石の伝統文化を十分に堪能できた大会でした。何回か全国大会に参加させていただきましたが、各県の独自創意工夫を凝らした個性ある大会は大きな楽しみであり、明治は一つというスローガンを肌で感じる有意義な会だと思えます。開催県の校友会の皆様のご努力に頭が下がる思いです。

参加される校友の中にはご夫婦で長年参加されている方も多く、様々な県を訪れるのを楽しみにしているのもこの大会の特色ではないかと思いました。

私事ですが大会翌日は様々な「エクスカージョン」が設定されて居ましたが、ささやかな親孝行として両親の墓参りをしました。その際、久しぶりに兄弟との懇親を深めることが出来、誠に有益な大会参加となりました。



校友会に入会して

清水 計明(昭53商)

私は、清瀬に住んで十五年、現在定年退職して三年目となり、前職場で嘱託員として働いております。

大学では体育会準硬式野球部に入部。四年間は小田急線の生田で合宿所生活をおくりました。寝食を共にした部員とは今でも二年に一回「準球会」と称して温泉巡りなどしています。また、一昨年より地元の還暦野球チームに入り、野球を楽しんでいます。退職してから清瀬の地域とのつながりがありますが、退職してから清瀬の地域とのつながりがあります。

そんな時に校友会のはがきが届き昨年入会させていただきました。これからは校友会の活動等を皆さんからお聞きし、自分に何ができるのか思案しています。

何をするにしても、健康でなくてはならないと思い、先日人間ドックに入りチェックした中で、頸動脈エコー検査により右頸動脈にプラークが発見され、今後脳神経外科で精密検査を受ける予定となっております。十五年前



には、人間ドックの胃カメラ検査で、特に自覚症状もなかったのですが、たまたま胃痛が見つかったっており、早期発見であったこともあり三分の二切除で命拾いし、今に至っております。十五年前が節目の年なのかどうか分かりませんが、今回、二回目の病状発見についても偶然ではありますが、自分のことを強運の持ち主であると自負しております。

校友会のメンバーとして、今後どのようなことができるのか分かりませんが、健康体を保ち、先ずは参加できるイベント等には積極的に行動したいと思っています。

野鳥観察会に参加して

福本 徳昭(昭54工)



が採餌をする姿を観察できました。

最後に探鳥会の皆様と読み合わせを実施し、自身で確認出来た鳥は二十八種類で観察会の確認は三十七種類でした。日和も良く楽しい野鳥観察会でした。

二月二日金山地区探鳥会(清瀬の自然を守る会、清瀬稲門会共催)に明大校友会より斎藤さん、福田さん、福島さんと福本の計四名が参加し、総勢三十一名(リーダーは清瀬の自然を守る会の小林さん、森田さん)で開催されました。金山公園入口より歩いてみると、池にオナガカモが一羽泳いでいました。更に上空にはハヤブサも飛来し、金山公園の東屋を過ぎた付近の藪椿にメジロ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリが早速姿を見せてくれました。金山公園を抜けて柳瀬川に出た時にカワセミに遭遇しました。やはり探鳥会のメインイベントはカワセミです。川の中の止まり木にしばらく止まり、目を楽しませてくれました。ちなみに嘴の下がオレンジ色だったのでメスのカワセミでした(オスのカワセミは嘴の下が黒です)。その後、金山調節池に移り、途中入口付近でアカハラが観察できました。また、池近辺で探鳥を開始し、アオサギ、ダイサギを観ながら池の縁を回り込み、広場の直前で柳の湿地を観察しているとカワラヒワ、カシラダカ、アオジ、ツミが見られました(清瀬の自然を守る会では金山公園内のマツヨイタケ等を残し、マヒワ、カワラヒワが種を食べられるよう保護しています)。その後、柳瀬川を川上に歩いてみるとイソシギ



カワセミ



アカハラ



シジュウカラ



ダイサギ

第六回多摩湖一周ウォーキングの報告

中村 曠(昭36政経)

平成三十年十一月十一日(土)、晴天に恵まれ第六回ウォーキング大会が実施されました。このイベントは校友会のほか、市民一般の方々にも知られるようになり校友会の定例イベントに成長しています。市民の方には市報でお知らせするほか、これまでの参加者にも案内している成果です。

今年の参加者は二十名、リーダーのほかに小さいお子さんから高齢者まで賑々しく華やかなウォーキングになりました。ベビーカーから降りて落葉を宝物のようにあつめていたお子さんにはほほえましく嬉しく感じました。また、初参加の青年は校友会の活動、紫紺句会など興味をもたれ話が弾みました。紅葉には早く残念でしたが、十二キロの距離をみなさん完歩されました。

ゴール・解散後の打上会も恒例になっています。清瀬駅前のジョナサンで開催、ここであって六大学野球で活躍された古川さんに声をかけられました。校旗を持っていたご褒美でしょうか、清瀬地域支部には準硬式のSさん、軟式のKさんがおられますので古川さんが加わると



オール野球部がそろうことになりました。こんなサプライズもあり、バラエティーに富んだウォーキングになりました。今回は十二キロと六キロのコースも設定しましたが殆どが十二キロ完歩となりました。ただひたすら歩き続けるウォーキングですが、参加者からは嬉しいご礼状もいただきました。今後も、清瀬地域支部の恒例イベントとして活動を続けていきたいと感じました。

◎会員募集中!

年会費 二千元

◎会費納入のお願い!

本会報は、皆様の会費で作成しています。会費納入にご協力ください。

第十一回麻雀大会開かれる

和田 人男(昭33法)

去る二月六日、清瀬地域支部麻雀大会が福島実行委員長の音頭で開催されました。私は、この大会には最初から参加しています。雀士の顔ぶれもその都度変わってききましたが、四卓十六名が参集しました。大会参加者の内訳は、地域支部五名、一般市民の方が十一名です。

この大会の内容を簡単に説明します。
六回戦 そのトータル点数で順位が決まります。スタートは、くじ引きで各卓のメンバーを決め、一番卓から四番卓まで配置されます。一回戦の各卓の一位が一番卓へ二位が二番卓と順位移動して二回戦から五回戦まで戦い、最後の回は、五戦まで上位の得点者からメンバーを決めていきます。

各回の順位で、毎回顔ぶれが変わり、新鮮さや緊張感が湧き楽しくもありました。また、配パイでのドキドキ、ワクワク感や役づくり、イーシャンテン、リーチに至る過程も麻雀の醍醐味ではないでしょうか。

東京新聞の夕刊に『この道』という著名の方の記事があります。そこに麻雀を五輪種目にしたらという意見がありました。

世界の人々が平和と楽しさを供用できる種目だと思えますがどうでしょうか。

横道にそれましたが、最終結果の報告をしておきましょう。優勝、準優勝は一般市民の方でした。私が初めて三位に入賞できました。

今後とも地域支部の活動として一般市民と交流を大切にしていきたいと思います。



フォト・エッセイシリーズ ④

清瀬から眺む富士山の夕景

粕川 偉三男(昭48政経)

平成三十年大晦日、富士山の夕景を写真に収めるべく、お気に入りの富士山撮影スポットに向かいました。太陽が山裾に隠れるまで、刻々と変化する夕焼けの景色に寒さも忘れシャッターを切りました。大林組技術研究所の前の畑道を進み富士山を遮るものがないところで三脚を立て十分。たまに通り過ぎる少年少女からは怪訝そうな目を向けられ「この爺さん何をやっているのだろう」といわれているであろう事も気にせずに写真撮影を満喫しました。

富士山には二十歳台に一度だけ登った経験があります。今でいう弾丸ツアーなのでしょうが、富士吉田に到着して深夜から登山を開始し、ご来光を拝むスケジュールでした。しかし只々眠くて八合目辺りの山小屋で仮眠を取って、早朝から頂上を目指した記憶が残っています。登りは眠いのと辛い事しか記憶がありませんが、下りは須走を駆け下りて気分爽快でした。土埃で顔が真っ黒になつて、下山して飲んだビールのうまかった事、今でもはっきり憶えています。

皆様にとって清瀬から見る富士山のビューポイントは沢山あると思います。雪をまとった富士山、夕焼けに染まる富士山、真夏の富士山と好みは様々だと思います。清瀬から見る自分の富士山を見つけてください。平成最後の清瀬から眺む富士山を記憶に残してはいかがですか。

訃報

故 志村直昭様(昭33商)

平成三十年七月三十日逝去

謹んで心よりご冥福をお祈り申しあげます。

刻々と変わる富士山



エッセイふるさとシリーズ ⑧

本曽路案内 島崎藤村と「夜明け前」

島崎 光(昭31商)

私の故郷は、横須賀市大矢部である。今でこそ住宅が密集してしまったが、市の中心部から離れていたため、田畑に民家が点在するのどかな風景のところであった。この集落には、なぜか島崎姓の家が十数軒点在していた。父方の本家もあったが、すべてが親戚というわけではなく屋号で呼び合っていた。

中学に入學すると、私を藤村と呼ぶ級友がいた。私には藤村とは何のことかわからなかった。後年藤村の詩が

教科書の出できたりして、少しずつ作品を呼んでおこるかという気持ちになっていった。

藤村の作品で特に時間をかけて読んだ…いや時間がかかってしまったのが二千五百枚もある大作「夜明け前」である。主人公青山半蔵が、相州三浦横須賀在浦賀に近い公卿村に遠い先祖のルーツを訪ねる記述があり、衣笠城を築いた三浦義明など三浦一族に辿り着く。この作品が身近なものに感じられ、青山半蔵のモデルは誰なのだろうか、藤村が何を言い表そうとしたかと思ひながら読み返してきたのである。

「夜明け前」の中心の舞台は、木曾街道の木曾十一宿の一つである馬籠宿である。(平成の大合併で県境を越え岐阜県中津川市となった。それまでは長野県木曾郡山口村馬籠であった。馬籠宿は今でも宿場の面影を伝えている)。

作品の序の章は「木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入口である。一筋の街道は、この深い森林地帯を貫いていた。…木曾十一宿は、この街道に沿って二十二里余にわたる長い溪谷の間に散在していた。」と木曾路を克明に描写し馬籠の宿を舞台に、人々の往来地方の動き時世の移り変わり、次々と起こる事件を江戸に京都に、維新後東京に、日本全土に広げ、維新前後に働いた庄屋、本陣、問屋の人たちを中心に描き出しているのである。この大作は克明な描写もすがすがしいが余りの広がりを読む方は迷路に入ってしまうのであった。

作品の主人公はこの馬籠の宿の庄屋、本陣、問屋の三役を兼ねた、十何代も前にさかのぼることができる旧家の当主、吉左衛門の息子の青山半蔵である。藤村は青山半蔵「あれは実は自分の親父正樹をモデルにしております」と明らかにしている。(野間宏氏の解説書による)

藤村は、明治五年島崎正樹の四男として馬籠に生まれた。本名は春樹。馬籠の島崎家は永正十年(千五百二十二年室町時代)木曾に移り住み木曾家に仕え、後に郷士と

なり九代勝房の時代から木曾街道の本陣、庄屋、問屋を務めた家柄で、春樹出生時正樹は、世襲の職を失って名主兼戸長の職にあつた。本陣のあつたところは現在、藤村記念館になっている。

隣接の大黒屋には大黒屋日記(「夜明け前」の資料とされる)があり、脇本陣資料館には大名宿泊の際に使用した諸道具や文献資料が展示されている。ほかに清水屋資料館があり、清水屋は初代から馬籠宿の組頭そのほかの要職をつとめた家、ここには藤村書簡や馬籠の文化や生活を知る資料が展示してある。

藤村は十歳で故郷の父の家を離れ、上京して学ぶことになる。十五歳のとき父郷里にて死去、大正二年から五年までフランス滞在。

昭和三年「夜明け前」準備のため馬籠、三浦三崎、横須賀公卿村を訪れている。

昭和四年「夜明け前」序の章を中央公論に発表し始める。

昭和七年「夜明け前」第一部を新潮社から出版、第二部を中央公論に発表、長年にわたる大作であった。藤村の作品と作品に関する参考文献は非常に多く、亀井勝一郎、井上靖、野間宏氏等のすぐれた解説がある。



馬籠の宿



本陣あとの藤村記念館

石田波郷俳句大会報告

梶谷 榮吾(昭46法)

★第十回石田波郷俳句大会無事終わる

第十回石田波郷俳句大会は平成三十年十月二十八日(日)に開催され、私たちの校友会も当日の大会運営に協力しました。

第十回大会には

一般の部 二二一八句

ジュニアの部 六八六七句

新人賞に八七編(二編二十句)と多くの応募がありました。

大賞は

江東区の井上僖子さんの「記念樹の丈は子の丈風光る」でした。

清瀬市長賞は岐阜県大垣市の富田澄江さん
角川「俳句」賞は江東区の橋本世紀男さん

この大会が全国的な大会になっていることを感じました。

★紫紺句会より2名入選

今回紫紺句会の次の2名が入選しました。

(西村和子先生選)

◎福田信夫さん 「紫陽花や厚き扉のジャズ喫茶」
(能村研三先生選)

◎松本幹司さん 「油蟬鳴く宿痾の闇の果つるまで」

紫紺句会にとって二人の受賞は嬉しいことであり、毎月開催の紫紺句会や今後の石田波郷俳句大会に向けて会員の励みになりました。

この大会の成功に向けて、清瀬地域支部の皆さんには市内小中学校の俳句出前授業の支援、応募句のパソコン入力作業、当日の大会運営などに協力していただきました。改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

★第十一回石田波郷俳句大会に向けて

第十一回大会は、本年十月二十七日(日)に開催されます。実行委員会では現在大会の成功に向けて実行委員会の組織の在り方など種々検討を行っています。俳句の募集は七月末日まで行われます。投句料がこの大会の財源となりますので、多くの皆さんの投句をお願いします。



【写真上は、ジュニアの部の表彰式、写真下は大会後の懇親会における渋谷金太郎清瀬市長の挨拶に聞き入る校友はじめ参加者の皆さん】

(写真提供・清瀬稲門会 庄村勝男氏)

紫紺句会報告

榎谷 榮吾(昭46法)

紫紺句会は、毎月開催しており、三月に第五十六回句会を開催しました。毎回十五名前後が出席して校友の細見道子先生の指導の下で熱心に勉強しています。六月には満五周年を迎えますが、今後とも楽しい句会にしていきたいと思ひます。

★忘年句会報告

十二月十六日(火)の紫紺句会は忘年句会と銘打って、清瀬句会より五名(高崎さん、細山さん、森田さん、山尾さん、吉澤さん)、ひなどり句会より二名(大後さん、米山さん)の参加を得て過去最高の総勢二十三名(欠席投句二名を含む)の句会となりました。

俳句歴の長い女性七名の参加により、いつもの男性会員のみの紫紺句会とは異なった楽しい忘年句会となりました。句会後は十七名参加して「はなの舞」にて反省会兼忘年会を楽しみました。

また、句会の高点句は次のとおりでした。

(敬称略)

7点句

十二月八日知覧の文の染み

6点句

片隅は男の居場所夜半の冬

5点句(五十首順)

ときめきは今も忘れず木の葉髪

息白し街に溶けゆく己が影

今年より薄く大きな日記買ふ

採血の血はまだ熱し年惜しむ

紫紺句会

改元や花咲き誇るプロローグ
FMのジャズに重なる冬の雨
初夢や骨が崩るる苦汁明け
かにかくに平成仕舞を師走かな
能登の里なべて農家は柿簾
松原の元寇史跡初景色

平成のをはり惜しむや年の暮
箱根路に紫紺はためく初景色
釣人のあくび一つも春隣
空海の突く杖の下水澄めり
カタカタと揺らぐ塔婆や曼珠沙華
コンクリの壁深々と秋の川
霊峰富士望みて集ふ初句会
黄と赤を浮べてゆるり秋の水
無灯火の自転車影日脚伸ぶ
木枯しや膝に手をのせ甘える子
陽たまりで遊ぶがごとく寒すずめ

穴田 作道
粕川 偉三男
粕谷 彌太郎
斎藤 強
佐藤 房夫
島崎 光
中西 宣一
中村 曠
夏目 忠
西尾 修一
福島 寛
福田 信夫
榎谷 榮吾
松江 康司
松本 幹司
丸山 隆
村野 良明

【紫紺俳壇】



紫紺句会指導

尺寸の空なり冬の蝶舞ふは

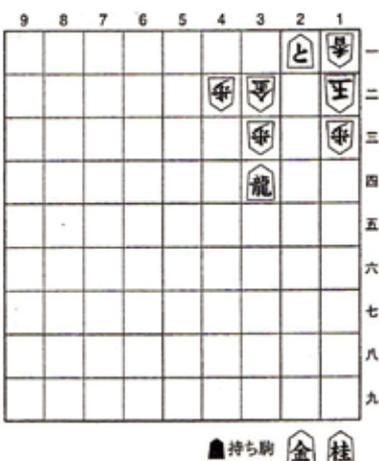
俳句結社「隗」主宰

細見 道子

チャレンジ!

詰将棋(五手詰)

(解答は次頁)



詰将棋解答

▲2四桂 ○2一玉
▲2三龍 ○同 金
▲3一金 まです手詰

みんなの情報コーナー



一、清瀬地域支部イベント

- ①大林組技術研究所見学とギンラン・ギンラン観察会
 - ・日時 四月二十六日(金)午前10時～12時
 - ・集合 大林技術研究所入口
 - ②第二回東京湾クルージング
 - ・夏季実施予定
 - ③コココーラ工場見学大会
 - ・夏季実施予定
 - ④駿河台キャンパスと博物館見学大会
 - ・夏季実施予定
 - ⑤第十二回麻雀大会
 - ・八月開催予定
 - ⑥第十一回石田波郷俳句大会
 - ・日時 十月二十七日(日)
 - ・会場 清瀬けやきホール
 - ⑦第七回多摩湖ウォーキング
 - ・日時 十一月実施予定
- 二、校友会本部イベント
- ①第五十五回全国校友大会千葉大会
 - ・日時 前夜祭 十月五日(土) 十五時から
 - 大会 十月六日(日) 十三時から
 - ・会場 幕張メッセ国際会議場ほか
 - ②第二十二回ホームカミングデー
 - ・日時 十月二十七日(日)
 - ・会場 駿河台キャンパス

海鮮居酒屋
はなの舞

清瀬南口店

ご宴会は50名様まで
お受けいたします

清瀬駅南口 徒歩1分
清瀬市松山1-11-12
清瀬駅前ビル2F
Tel.042-496-0253
営業時間 16:00～翌3:00

日本料理 **魚久**

お祝い宴席ほか各種宴会を
ご用意しております

清瀬駅南口 徒歩1分
清瀬市松山1-9-4
Tel.050-5788-8323

営業時間 平日11:30～14:00
16:30～22:00
土日11:30～22:00

定休日 月曜日

そば処 **玉川**

そば・うどん・丼もの
配達いたします
宴会承ります
(忘年会・新年会・食事会等)

そば・うどんは自家製麺です
揚げたて天ぷらの美味しい店

営業時間 11:00～20:30
定休日 水曜日
住 所 清瀬市上清戸2-6-28
(郷土博物館となり)
Tel. 042-493-3890

清瀬地域支部の情報

清瀬のホームページ・ブログ開通!

ホームページ <https://meiji-3.jimdofree.com/>
ブログ https://blog.goo.ne.jp/tuyosi1940_007

清瀬紫紺ネット会員募集
情報・連絡用メールです。(要アドレス登録)
kiyose-event@meiji-tama.net

POSターミナルの導入・開発支援など

有限会社 **マイテック**
粕谷彌太郎 (S28政経)

本 店
〒204-0022 清瀬市松山1-27-1
Tel.042-492-0611 Fax 042-495-8357

本社事務所
〒113-0033 文京区本郷2-40-7
YG30ビル 6F
Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763
URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

**あなたの街の
村越自転車**

〒204-0022
清瀬市松山2-3-3
Tel.042-491-0349
村越 勝重(S50工)

村越
自転車

←花小金井方面 小金井街道 所沢方面→
三井 荏友
南口 清瀬駅